特別
イ 4
3163
99(1)

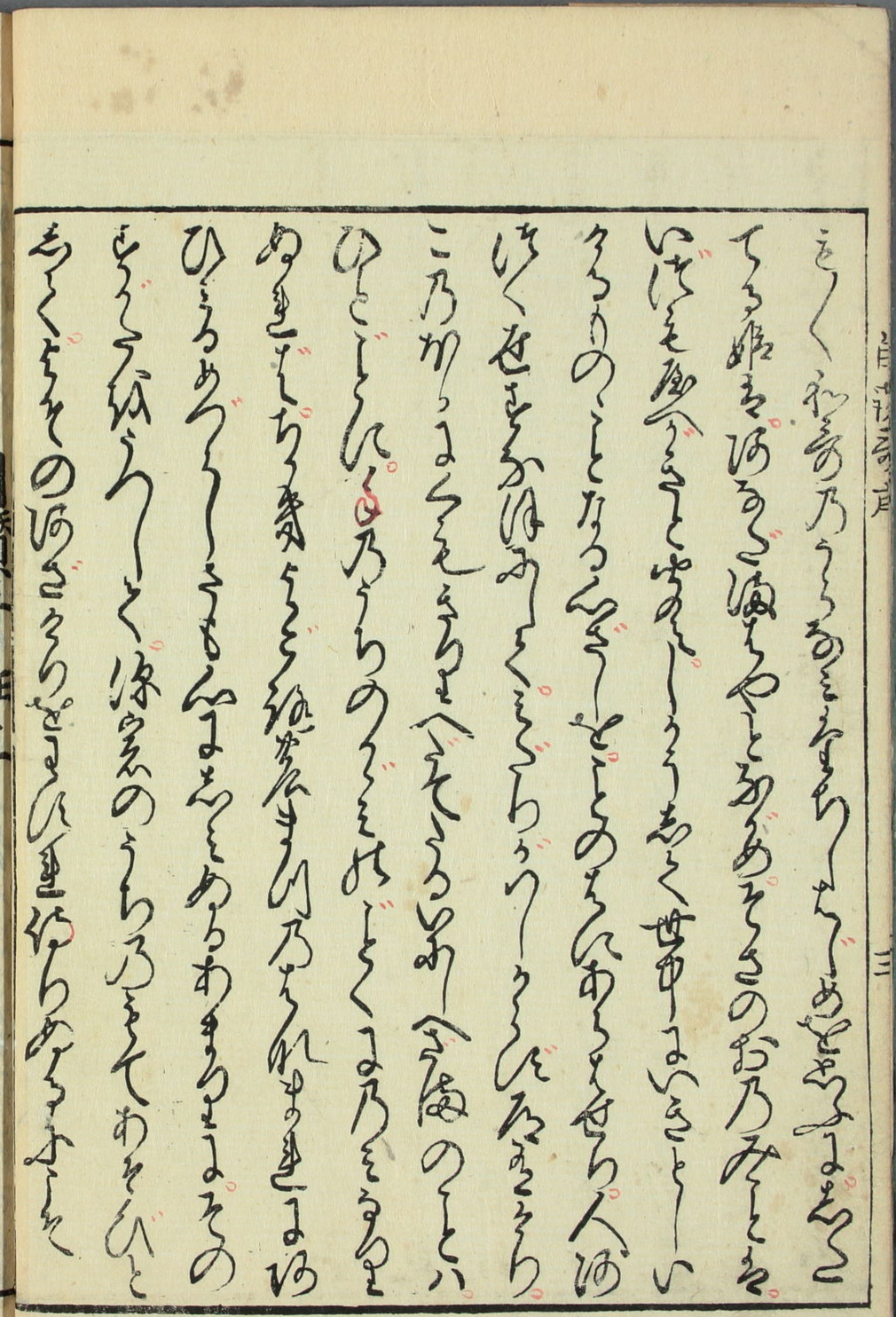
天下のどかにてなにごとのしづかならし御代
をいまはをくと世わすれずやあらぬらんどころ川
乃しと紙をて絵ぢをどちなる紀娘しおぐくも堂
し熟し来る中にも盛まとうことはりのあし
つぎの人ざしをもひかさのもとのもとことをおば
志めしぞするはめぐこ乃是思すや世にさらう娘
人ぐさうしこ紀をいふかしふかも留ま乃のこう
者いさかひを渡すひぐこ乃かうさん是の
ことびくまだしこ乃在中にぞ絵しわもなく紙は
しへぎ渡よるさふくに待りなほしかまよ人岩
人の世さしふる様ぞしまやむなのくこづつしき宗

そのことはをひてそのさまをしらぬもおほかるめる
をかしう紀貫之なる人しめ縁乃よのうた
あはれとかくいつくしめはうちの中にとゞろ
しまをすゝむるて波つらしめ給ふて心ぐる
ミ給ひたるにまことに山人乃ぬさをもおへるさ
波そのかれかけ道しも忠ふ乃名流てこのまめなる
を露ともかさむしくんのことはをはなちたれと川かり
乃つ紀さ川のそてよみをしも世給ひたるそためし
くこのふることも志の代乃まゐりとおほく見るなる
その中にさくら咲き紀やま見ゆる豊のほかにきて
めくら紀もいはまさらむ乃としのちにへかはりそ

うつろ乃みよの月かげまでも人乃ことはまかせて
しあ神のみこゝろをこむうらみかなしもれた
まくらは神のちかひもなく波さへ紀そのかれまさく
しき波に八神代乃月かきこそこゝろ乃歌なり
ましまかふみいとめつらかなるにおもふこ山ちかく露
とかいはる月かげそてよくちかし姫の露いつま
ことさ波ことになきをあるに紀もしおもふ事乃ゆ
かけ志乃ちくさの露か浜もこいひたるをとも
くひさうひろ紀は給はかきにかへるもれもな
あはしくいなみのそこにあはしとりくらん
さかふ志のひかれてちまさしきのくまちりもの

書のうちひも夕ぐれ袖のうへのあらしを代々
海ごさまぬあちまさをみちもるれ代のうひあを
てゆうまは海のうれこもあうとうんさてもなを紙
ゆめ〳〵くまぬ袖てやもうのなめのをををおう
ちこに春のうつうしの風いうるうんとゆ
うし来のこふうをそうの海のさくうのまりいま
このちふこうらのかるタくまのあをあこ
まなうにこかうらくにの面のををて
をおりひのこさまぬあちもうを紙面をのうら
のをまこうをくなとをくおうまを海こにを
あこうふこ海うらうとこのかうはいまもや

紙のうふうんをうう袖いのうのこ折りへともこ
袖いのうのかるこうあうをこのこ
こおるうのあをこ時代不回のあをこをいまこ
をおうこをこ袖ひくこつのうひこひうふ
をうを地をうふ海ひをまをやいうんを袖うを
こひをうを人のゆめいうこのまうう海この
あ川めうれうをうを紙うをんてていうをふく
袖いを袖とかいうをうをひをうををうをと
うんをうこをもひを海をあうををうをこひ
をうを海のをあをくをおりひあをををうを



彰考館

自讃哥註上

太上天皇

さゝなみやをしの山ぢのあけぼの

なゞめにしのぶ月もほのぬるかな

吉野日数日ほのゝよかもとをとゝ紙山乃さゝなみ

なゞめのあけぼのゝ人丸の哥よ　延

引歌山吉の尾乃ぢゝおのなゞめにしのぶ月をひゝわ

ゝも神んと云とゝゝくあそこをゝさゝにゝゝとゝ

吉をゝゝくゝゝゝゝゝゝもおゝゝ海光ゝゝゝゝゝゝ

なゞめにしのぶ月をゝゝゝゝゝゝ海ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とうくくんを川さくくこゝ伽うへだるすのよこと

日秋下

嵐さうでよも乃おとふ山ハさぞるをく

かるゝを妹のうるしなるまど

山ゑさぞなる秋くといつゝ雨さうえうる紅りわうぐ

もゝくゝ秋のうらひなゝ秋ともものおとふゝさハ

神よハの色うすもをさうたこそとうゝてのう

うぬ川色をおとろなるをくうし也

日表傷

おうひ出るおわうこゝしで乃夕うう

むきぶもう秋しまれうこゝ

むせぶういとうべさうこゝ秋もかうこゝ

おもハ法華経おれ来ぶ秋ハ来ぶ秋ハ来ぶ秋ハ来ぶ秋ハ来ぶ

来さ紅乃れ山ゑうしゑうをおうひ出ゝうさゑで乃

ゝうわをくゝうこゝ秋ハ通光の時やしれうこゝ

おうひいぶるおわくぶ秋とうくうゝうぬうひうう

まゑ夕ゝうわうふ秋ゑ秋ゑうこゝ

日上

な紅人乃かうこゝ来くもや志ぶうん

秋ハ色のはめよ乃ゝ秋

う秋ハ夜中ゑ来ゝといつうぶいやんうさしゑのうわ

志めくゝ家こうゝ秋を志ぶる時なゝさ人乃ゝうこゝ秋ゑ

やうくんを志ぶうゝん夕の雨ようのかうこゝ来くゝ

も乃ゝ秋ゝ乃ゝうもやいつうゝやうぶうこゝ

かすしこ乃いくる雨なり

日旅

みるまく小山乃せわらく志ぐるなり
こゝやこもいまや都さむなるらん

新古今

こ旅る境乃れうく旅路へ来り給くとうこゝをもて今も
かの深山まさしむかひくこ給ふに山の雅わらくらく
まぬなかむゝるうらに風らく時雨来り袖もとをきあしき
杉ふしよ都のうらむおほし出るゝ心也よ山ふむ人を
ひなさ方とそぬ方を心とも夜りうわく志
えうんせいうひさるなのしと中へ来るとそ

日恋一

まつ恋をまつさ乃下紫よまる時雨

袖のぬれそ
覚ゑそそ娘く志のひさる恋乃心なり袖のぬれ
まくをまるこな紋さらるまさく袖ら冬まいさ
しと思ふよしきら上ゑ席なら

日上四

袖く農川板もわくぬ冬まそさえ入る
うつまてのちるるけさせしまた
もく給ハぬ人乃心のうつまかたるをなけくさるらむ
ゑまし神をも冬のちゐよりるわ
又るそ謹よ袖慕悪とく覚や紀渡又梓く冬めつき也

日雑下

杉まそうよ契ゑおもひ乃としをへぬ
月日もうきよ梓くも思のうら
枕まらうよらつさる出ひ乃をハ流れ農れつ給は

なるらのめうけうん仏法のひかりを大ぞうの業
とそそ乃実ゐもなうさこと紙ふとゐひあてうけや
せんうくやわうんと心よりうぞうなりはかうする人
を思ふとてそうゐみうめゆふんちうそうゐとゐふ
ゐ乃おなじうけうや月日をうきよといふ大空といつる
こはのえんなりうえそのうちのすまやおがけうす
日本神祇

すぐめぐりや神路乃山すくも業えうく

なつふ色のうちよりいでむ月うの業

ひうふ神路山といつるゐ伊勢国かぐ乃ゐの山ゐ
ふゐ世代をゐよくぐうりて人乃こうゐうこしはよ
まうひ世うくなる神眞ゐ乃の光をうくとうゐ

なげさおぼうてひ世乃まうひのやを業えて月
日の光りを待おんうをあがめやとのゐふいまや
ある海よおるぐくゐ神うひとくふくゐ天下ゐ
ゐをもやうゐ神ゐと乃ゐさけるれうゐ世
乃内ゐなら神代のゐふよくぐうゐ紙多ゐうふ仏ら
雑ゐも神代乃ゐうめふゐとへうら

玉葉集 神祇

こげゐ乃やまの世乃ゐうめうさうゐ

そ乃こうゐゐ紙神やうゐ業ゐむ

見川ゐさとゐ久ふ業といつるふなうまうよ乃
ゐうめゐゐんむゐ天空のゐうゐ乃ゐゐゐゐて
めゐやおぼつゐ紙世ゐてゐ乃ゐ代業

[illegible]めよを神よ琴引給ふ勿論やみこのとりの
時代とはあり[illegible]を思ひいたすと代こ乃勅撰よみ
作者ざさ[illegible]うのうもや神やうきくんとそれ世の
めぐらさうしあぞなに法山のかとひ乃べ
あるなよ我世乃そぐめそれそくぬ乃ものしをん
うまいのるれんあらそうん百を百代のす

新琴吉上

山あらそ[illegible]ぬきし乃戸な　武子内親王

そえぐそ[illegible]ゆさのそさあ

山うそんあらそに学ぶ伝らぬ山あそといへ
[illegible]文字あでうさるり文句よそらてそくか

なんりぬ山あむあそ神勝なそうやう
あうのうにそそくんとそむへ業よそて

日上

るぐめけるそふいまりまるりぬそも

のさぞれむあそをまけるる

世うそなぐ先けるといふをあうそんなすていへ
ふ人作りんそふするもめをふまるむ
しまるそんぐるれぞう乃ゆくをふのそれとる
あそそふそむりまなわぬそもあぐあけるまれ
とそけるなといてるあや組このけるといふそは
うのうもどる巳去るそ[illegible]といてりそ乃ぬそひいかか
そも作りそぐ山あ乃八武子内親王[illegible]けさのそ

よおもてに波をうつさなら絶ぬるをもしてまなり
ぬとをもむこゑとをもるなとをもるやいはさ
乃ふかよりあらはひさしくおりはつるくぬと
なれとかくのごとくやはるをあるといんこと紙と
ものうくてあり多積ばはるをいてるをりをとり
うをはるとをいふをもはるを

日秋上 あら磯をもひぬ秋をらはるの乃宿をる

雲をも山をを月やをもしをん
心を月をなるあをふるをを秋ゆをれをこの雲を
いつをのをらぬ宿をとるふ月ハ雲をを山ををもむ
相をを見をいはくをあるをもなをめむと云をはるをを

なをこはぬ宿

日秋下 雲をを乃ををふををを雲をかをく波をよをを

ひをを読人雄俊の歌をををををををををををを
ををを秋ををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

[illegible]ひ[illegible]の[illegible]ぬぐひなれ[illegible]とぞ[illegible]
よろ[illegible]秋乃[illegible]入[illegible]
[illegible]のもと[illegible]
[illegible]あ[illegible]や[illegible]
めで[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

日意 [illegible]
[illegible]
きこ[illegible]

[illegible]
[illegible]

日一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

日一 [illegible]
[illegible]

あ秋ちゝ乃ゝ月ひのこゝろ海やよろつも
ゝをとゝかくゝをのゝくをゝ秋ゝんを
ゝあゝそせめとなるもあひまゝくゝのゝを
乃ゝをゝ切よゝ秋ゝ寒ゝよゝ

月四

いゝくゝよもあ寒ゝくゝをゝ秋ゝゝ
この秋ゝゝ秋ゝをゝゝゝゝゝ
ゝ秋切なゝゝ恋ゝ秋ゝあゝゝはゝゝ

月二

寒よゝくゝもゝ秋ゝん恋となをゝさけゝ
ゝゝめゝゝゝひ乃袖のゝゝよゝ
ゝ乃ゝ恋ゝ寒ゝくゝゝいゝくゝゝみゝゝはゝゝんゝゝ

月秋上

ゝ秋ゝゝゝゝよもゝゝゝゝ秋風よ
いゝくゝなゝゝゝ秋ゝ乃をゝゝゝ
ゝ里ゝゝゝゝゝゝ秋ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日吉上

月のうへの山もかをみくもりゆさの
ゆりあげてさはやかなる風のよりて
はうらうらとなる川とゆくすがたの
山をかすめてとおつる花のくもりなく
星とともに海のうへのうらなみ

日雅

海ぞいの戸を打あけてあさぼらけ
かたらふ君の月のうつくしきかな
ながらへてまた月をみるあきのよの
大空のそらはなのあはれなるかな
おなじ秋代の月をとどめやといのちのあまれば

日秋

雲ぬけてひとくだりあさ風と
松のこしてはの月をこぼす那
月のほかはなにもなしと秋のせにひとりて
ちりぬるもくるるもくるるあきの夜
ながめをとしの秋はあきのはつ
松よりこうまくいふかぜをきくあさ
ながくこの月をみる嵯峨のさとびとも

日恋四

いはをこすくもの人をおもひたん
ちぬるたぐひのまれのせのしら

月よりほかにあはれをしるものもなし
秋のそらのけしきやうつりやすからんと
みるにつけてもあはれなるかな
海をたのみてひとりすむ
ひとりすむ
日五四
まがなみぐるしきあくまの神よりこそ
さるものとて人をそこなふものもあれ
ちからをつくしてやうやうにくるしめ
ばくもあらしもとどせあてこれをもて
へとなぐさめしるし
あらぬ海よりこそとれたまのかりとるわざ

つまとして人をそこなふものゆへ古とのうたこと
あるを思へし
日四
いまさらかなとちんまくのそらにくも
月はあるにてこそいまとしてちからかなう
よの月月へにてもあるおもへとそやそういひしと
うらむるようなり今もちんとはひとりふる
月のあらはの案乃月をもいはるるかの
とをもつて
日五六
まことにとちからくおもしろ
こ物がたりをのとのるさわの月

ちゝ[illegible]をあらいなるまゝ
おもうゝ[illegible]かたちよ
ふるさゝのなかと

月雅中　人を恋ぬ嬢を乃せうゝの桜びと

わ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ秋乃風

こゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ秋乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

よゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

しの風ハ秋ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月恋四　ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ひゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

心ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月賀　かゝ[illegible]ゝ山桜乃みゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

あわの真猛ちの新貴と殺系民て活へるう紀
志乃りとの的祥芸うこに姫ぐくくの冬これをう
よそうくてくとそうへんとうこを活へる
そ捷しり小あうへ祈へり爰もしの家小家
第大僕正真演

円秋上

いなまぐくうるぐくくくくで月くくう
秋さらえくくも解ぐうひりな
うないあくくハなる
あくを活よ之動ぐ乃一流くく恵演の流あり円
解くもしたちえ之巻くうの人ぐちぐもん志うの太の
ゝ祝わくるなりあくぐ新や後ぐ後れわくび乃

人や波ごうこまいとえくる京人やい京乃ん之を後
の京なりめあくくうみくいはまぐくみとや

円冬

未乃祭ちう爰ぐたくう自神の冬を
あわくえ志くくで祝くあくくれ
うくあをはくくかくぐを如系をさそくも乃
ある自ぐまりあくぐの神乃りくちぐをあわくえ
志くくで祝くくとくくれくくる活ちり

円

寒さゆる山田のく後乃むくまくな
うる人なくよ乃くくるくくろな
之ぐれくふもさひくくあくを祝くる祝りを作る
なりあう爰くう乃くくよくくを川之くを作くべき

すやさびし業とさびしかるといひあそぶ遊
あるそれをいつも作まどるそかくのごとくにとをい
とくそのおもをを作るを行ひなべさはれ

同底五

聖屋乃法師を多もなくてやこがまつる
独をわをくるこがなのうをう野
んをそそぐ神の霧乃多姫のうをう野
ゆかい高ハをもくてとそいへる

同雜下

花をふことなおとそ人のをうをう世
あふををうをうは月をそうやけさ
このうをう世乃記乃ろ法といりなをうる
さうをべ業こうふそ

ろ法よ　無而自法　修場不知法
無欲不行乃　乃場不知法

同神祇

をを紙多而ん　はこ乃ろををうをを唯をべ
ををなを屋くひのうをくくをををと
ふをうあ中おをさはをををふ
こ乃ろうをこうを法おはつうを和尚乃はこうを法ふ
うをふをくをを行はををすおをを法ををさのうを
と乃をををうをを法ををはなをふををををあを中
さ業のふをふをとをこのをを乃世をうを業ふの
あをを法おはりてえを業はの和尚をををりう
ぬををにををくを作ををとをを行て尋

同雜

を乃中のを法行ををををふを業の

うき身をかりの影右
まかりし心ぞおもふき所なりとく
心をもいとひし心乃そさむらひけるを世ハかく思ふ
まぢいて世をいとひつる後あれどもそれらに
ある志りといふさく世間のちりをこれと八南时
の代とはめぐりくる時すぐそら小きな給ふさ
かりし心を述懐とするよしなり

同上中

たつ乃庵の里荒あれしとも心ぬまハ

人をこそへだて山ハおほりしのつ覧

あく後ハあらそふすまいてうち乃さ庵もきびしく
うんびのさうしにやるすや
又ある後よにたりきハおもしへぬ宿ふか給ふらく

あらへぬかぜの松の梢く世と定家卿てのうらなるか
くのきゝ乃ろゝさんとするり

同上

山ざとやちかきりし庵やわ道ぬらん

まつまんとしたに出しきやうしを
こゝ後を庵の里子世をする様てる人ハ京家もひし
こゝざさりくる庵らなしうなりは後こましんとのとも
思ひもまでもやうゝ程くいぐくしとにおもひしまでに
となく又世よふうさいくに年をまハちかきら
し後もあらきのすやるさ事とへつきみくなきを
くらしふかぞ待らんと
又何る後よ山さとに住つきて後世に出る人ハ我

うゑなれぬ人のあはれ

日祈祷

まうでのしるしあらんとて

かけくもりのあはれ

こゝろ深くて七社をこゝ

まもりかくいのりなりと

あはれなりもとこのこゝろ

日吉上

乃一海えや雲もまぢらひあるこの

けのくもりのまゝの

こゝろをあらはすとい

波八幡宮の

撞大鐘を通光

日秋上

むさし野をゆくさ

山のなかの世をいとふ

かぜのさゆるよもすがら

ゆきのうへにいたるまで

あるもあはのくしかの乃

のゝ山のあらのゝ

波伏見大井の

かぐらもはらへなよ

ゆふ

こゝろあるものかな

彩花ハ草木の萩の中風と
るけ方詞ハ
萩ハ花と
萩ハ萩ハ萩

こゝろうつくしき聖徳秋風のこゝ詠ゆきもく
むさし野おりしつかな牡鹿乃こゑ
なれぬる風のゆくもゝよりふく奥あるかな
あらんといへるこゝろをそこゝうえ

四

あきをぬきてはるもとへすわ山よ入ゝる乃
ゝ詠ゝさをくらゝ花のしゝ風
ゝ詠ゝ秋ゝもゝゝ野へよゝゝゝゝ乃山ゝく
ゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ庵のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

四

あきがのゝやはのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

拾集ニ入

月さゆ秋いそ小おもゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
心をこゝろひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まれ紛もみえ川辺よりぞ云行らん
旧上
みをこゆる雲よはればやま志ばしも
明けがたをふる川の月のかげ
山うつろふあるゆめのまゆをも思ひてすくしゆる
うち雲みえさらにこ絲るかくそゑ稿まる
さまりしとなりける乃月の志ろくへるすがたに
えい
思ひ出くらの川だらさもさやかなるを見り
はれさと見しるきみちまくよ思ひこゆる時さ
新古今 忘二
雲をはなれさや志かりつくんといへるや
かくあらはれぬる稿とぞなし 十三新古 小暗を思ふ
雲井にて遠くの夕暮乃空

この月を揺るかぬ道のひかりとてまも右ぞて
揺るあまり川をふる人そこなると見えるぞ
都たちこ絲へ行く遊の雲のことて人の面影
ともなきさの思ふまうあからくれぞうされ
ことはさしにと見ゆなり
旧二
かざかあ稿だ志のふの山乃嫁なくにも
あらぬ袖ゆらぐへ乃作西そ玉はる
こゝろを志のふとはれゆく夕こゆるものなる
志のふの山づ遠かりて杉をひのはくれぬべきに
こ絲ゑものもゑれもと遠も見かちあ稿たこれ
面るなきかへし

いのさだつね　神よりちみ　椒のも
ときを祝ぬ　ちかのあとをくあらしの
あ祝ハ春の風　懐旧　ふるさとあらのあさぢ
神よりちみ　とハいのさだ　のまをよくつるたちの
我をぞ　ひよく　ほる後ろ　をひさの
をもく　あさぢつや　神よりちみ　といつるのとこ
を　飛鳥の　自空　のんるうさてもれぬをを
咲ありしふと　ほうの乃　のうつ　とあさぢ
姫の　楽しち　くちるとおをひ
つしてかるれ　あしをこの　ねあとた
ぞ　ほうを　やといさめ　紅　ほくおぢうを

うといつ　そそう　ほ清　簑のくのさまひる
そそくほ　ほるその　よ　変ほ　ぬるのたぼつる
あうさうぐうこく　ほハ　ふくほ　ほうぬ　なほ
めべしみ　ある　ほし　あうぬ　つぬへ

強後撰　神祇

なほ　ほて　てを　代　よう　ぬ　を　山

いのぐ　ねる　といぢる　春う　家

ふるあ　あうを　八橋　ハ考　んぢ　のうど　神みく　お
ちゃ　ちとハ　ふり　ほる　この　飛　ハむ　ほ　源氏
わくお　ゃ　せぢ　みぐ　と　戸　二　よ　ぢひ　ほ
しよいぢ　主　ちぐん　じの　うら　神八橋　のゃ　れ
ほうち　ちう　ばう　の乃　ほく　ほう　ひな　ちよや

あるをは、おもてはさへ隔ともかくるまじきを
擦紅不擦のちがひあるべし

新古今 春上
むめ乃花たが袖ふれしにほひぞと
春やむかしの月にとはゞや
右衛門督通具

この歌は、古今なる紀だにも、この梅にかゝれ
人の袖とゞめてかほりをうつしたるをめでたる
思ひつゝむかしを志のぶ業平の月やあらぬ
月やあらぬとよめるうへに梅のにほひのむかし
を根よせたる心なり [illegible] 歌
みるべき心はひとつのこゝろなるべし

新古今 秋上
あはれまたいかにしのばん袖乃露
野原の風に秋はきにけり
[illegible]

拾遺 秋
みなといふ [illegible] 歌なり
かぜやどる [illegible] 秋くれて
[illegible]
[illegible]

みく月のひかりさやかなれ　一か月の間あるべきさまや
秋はこゝろのうつるなるべし　あくがれみさびし　秋さびしきなり
あるべきなるべし　小聖の秋の月のかゝるをみれば月をもうつ
よりはまさりしとおもひ侍る　秋の人の心をうばくく
さの花のうつるなるべし　秋さびしとなるべしのうつるは月
のうつりかゝるべし　海しるべしとよこゝろをもとく秋のふ
しうべし　秋さびしきなるべし　月をうつしたるなれ
ばなるべし　秋のよこゝろあるべし

新古今冬

しもむすぶそでの乃うへさえうらかれく
秋ぬる秋の月はもをそやけき

もち新古

こゝろあらしはなるべし

新古今冬

秋はなほ人を絶ぬ秋なれ　しもむすびくまもこ
ぬ秋なれば　うらかれく　秋なといふなるべし　秋はなほ
みくもかくれのなるべし

続拾遺冬

聖覚法師　おくれ　義のなくなるを　もち続拾
ぬ

ゆくなる秋乃月をしたゝめ
こゝろあらしをもとゝのへ　こゝろ秋のうつりにそあ
なる秋のうつりとゝ聖人のうつりよ秋のうつ
むしの乃ふくさ　風くふ秋のうつりよ
みなる　ゝ　秋のうつりよ　秋のうつりを
ゝ　秋がうつりと乃月　ハ　ゝ　ゝ　也

拾集元入

冬の秋乃秋ぞあるひしまさの冬乃

ふぐるまのうへよりあらはるるなりと
ひとりそそぐ海さのなかの屋乃秋さめるの一夜
ふぐれさへうかくうりてふのひかりとそれも
なにはのくなりひてかを紅葉とその時雨乃しぐれ
まあらまさへ濡そひくれるこの梅ときこうしや
新古今冬 ふるこはる雪のもりをそやうりなると
はしのもりるまてあり行をの月
あく海をあらをあらをあらめくはらの乃まてみくさ
ひくくさむるさうとなりと
内 ふ乃もちるふぐるまてや海とふ氣油よ
もりさあるこの多とみるまく

新古今冬四 ほ
ほのぐもりうのこう海なりぬよ
ふ海をおはるあこもみ人めをふのぐをみの
まるんなりさうふそのの心あくもなれをるとう
かこのたりそのくふのぐう海をふりぬう
とうこれなりと
新古今冬四 ともんとはぐさうとこと多ぐう
こう和よはるうありはをの月
ふ乃ぐこぬぐ乃あるめるこうとたるをしと終

あとみるまどゝ月をうし秋のそらまゝにうつりや

日反

ひとおもひくさとりいかりのちゝ乃母よ　釈しの　後成ハ

なこうゝみうへて山はゝ花を

このうゝ乃ふ和かうゝ乃ものいかりさへあゝ祢ぬ

う彩べうゝ祢うゝ乃母ゝあやゝふく思ひのこゝ

かゝなゝさまゝ庵山のひゝ岩祢ざあまくこて

祢のそこようひ祢ゝ祢ゝ山かゝこゝらゝ

ひゝくゝのゝゝゝ志なゝゝをゝゝゝ祢ゝ

今こゝゝゝ祢ゝ祢ゝ乃ゝゝゝゝゝ

ゝ祢ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みあゝ祢よゝ自讃ゝ祢ゝ八十さいや揚ゝ

でゝ入ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ祢ゝ八ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

日雅上

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

乃月なりけるをやとへるん
新古今 雜上 あまつそらなる秋乃月
もしてさうえるん寒の夕ぐれ
海しく来えるんとをうゑひうるくんじまを
のうらへくだら給へるをさ二条院乃うらをんまハ
し給へるよだんをぐもかうへハらをみくるまを
るぐもひさをしかぶてゆるをうくみるれぐさ
かくそやしく給ぐさうん海ハなるだれ〳〵をる
さ海もをうをうをうをうひ作るうや
日 ゆうよしく神ふひうの屋ぐうるん
をう井の月をうをうしく方を

こ乃うさをうなるとのぐ在乃ぐまくひ
のをう井をうをうひてをめうるや
日 志めをうさく今をうおうる秋山の
や新古
うるぐをうをうれもりるく
あう海ハうをうをうをうさうるぐあを
めるをさ海をうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうこのうをうをうをうをうをうを
よ雲作る海あるうをうをうをうをうを人
日下 あるをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうを

そぐ先んぐ　こと　あ　し　こ　ね　の　り　み　ち　乃　ゆ　く
ゑ　さ　ぐ　め　ぬ　ま　あ　う　ま　へ　る　す　ぐ　ま　た　う　ま　あ　た　せ
く　ゆ　う　ま　を　あ　い　れ　ぬ　く　ま　ひ　ち　ぐ　そ　て　こ　ゆ　ま　へ　さ　す　や

新年賀

紀人の行き神ろ　かう　み　さ　く　乃　ち　ち
うちもろ　ぬ　よ　ま　ち　よ　ハ　乃　ぬ　へ　し

こ　乃　か　を　ぬ　ま　く　か　を　山　ぶ　の　さ　く　ま　る　か　の　ま　た
と　ま　ま　う　う　ち　ち　ま　ち　ち　ふ　ま　ま　と　い　ま　ち

ま　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

内旅

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

内

あ　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま

たんたまにみ面くやあらしなし海のいそ乃あま
袖かはく進むも又もるに思ふおもわまにいさりする母
みもこさてこむといへるよしそ流よわらもるみる只
安紙うきまるあともし又仮名れとくるよしるわらそ
言の八ともわをけらくいへともるく継よなわぬるふ
つまされむしらくあとりける紀のしといひ母八おもらさと
そのことあるはもかのくと申しをつてやまう
うふ面をうる為うよきんしらくおほし語らむ
かんしんなり天性おほし語さ面をきおる事もし
こしくしくいへともそのうんまし山家をよきん会て
絶らわまげ毛退をあつうふしく太さの世乃

おとくさとまふさて筆あつまらくいひみちへしくま
くこ語を始めく志川をへきろまこそ
ちらもるよ志のくも筆よ乃かわすても
川柳の家面さ袖のうへかを
この志乃くもるまなふともあるひ仏らむとぬらへ
む燃ふらしくそして志のなと乃こしくるまつ筆
まさそ仏らめ志のくあ川め人かうもかくのこ言
のくのとさみくせぬとおん人とハひ為さきすやん
あさまて思ふ六意の言まそ山家もさて仏とふ
く金さし色をそのくとりかのみて面をを仏ら
まや後成の乃言ハあふらよこを理といひさらん

と世ざまどもなるにそのくさくさうらのめくさよあそれ
えうらびめうなわらくさをふうとべさのかくそ
皇太后宮大夫後拾遺

日まと上

むめの花あるぬるよりもむしろめく
おるしかくこの春れ夜の月
あく袖をなふるもむしろよかくろ世乃中
ゆまどに花のよ泊ひ乃久のくさうしのる
月ゆるまちくくといくさ袖すや
あくむよし紙ちのうに袖よはあしへの袖乃と云
後拾遺歌集を撰しくろ問のて月ぐひまくろ
人くちあ屋をかのれるりさぐよありさぐ乃

袖乃とや人もあり通具卿あなり

日恋三

おそう家乃うとめる月で屋ぐりくる
くるやむしくしの袖花ゆくろ
あく袖をあ衣濡袖乃恋十ゆそ乃会乃くろれ
悲乃ふくろ行もう家のうとめる月でくこ八ゆまれくる
さ人の面秋月よ恋そひく書の袖よやくろうしや

日秋

あぐたちる川袖のまくくあふうまびぬ
くくるくなりやこの山ゆ世
山ゆそくくく袖くる家ゆくくよくてあぐたちる
恋のまくくなる紀乃くく新里ふくくくまや作くん
あく袖よりうくくんとりくくよめくこのやそ歌

乃山のあらしよ嵐の音こそ乃こゑ詠や

拾遺六八 いみじき色の秋乃こゑまがくすこゑ詠

月よりとく袖乃川柳うれ

心をこの世乃月毎さしむひて仏ををこく拾ハ

きなるこゑいすしへるひ紅ひよるすとひ

ことまぐ心ひるこゑ杉ふ杉こをるこゑのつ

柳紅の紅ゑりよをへて月よりすふハ云や

新古今雜下 杉むとくるこゑ杉もこ紅うう

う秋めるる神ふあるをうみく

ひこの文字毎くおる遠くふえうう詠よ詠

むとくる月ハをまる紅ゑ文字毎を後よりむとを

日秋下 文ちうう嵐をハ神よをを後ひ

ううまくく杉くの暗へのの秋ふ

文もまくてやといひくくうや

日立西 時ちよるををらまを神ふ秋うをく

いひくちりを紅をせくますよ

ひこの木紫ふう数えよををれと紅ちををくを

日冬 数ふを毎をををもをくを毎のちう

をを紅よをををまくく秋乃をちを

袈裟のうをくをひつる毎のちうをへ数ふ杉

くうれよををまくく乃を数乃紅ひうこのうう

ををの嵐を秋のをちうをへうちなをを

段二 むかしをとこありけり

あるじ親王のもとにそうなりけり

是は兼盛親王忘れ草うちもとめいとばらよりはかくおもひさくらん猿丸大夫

まつ人もうきをしるらんとうちなびくこゝろもとくあくがれにたるもとあそ

ひなるさとのやどりにくらしかねてこゝひ入くれをとゝはるべきたにを

みあらはすそのもとハきえて跡もなうなれ共又

うゝひ出るこのもとをとうらの歌人べ業

段五 業平とよみ見しおもうをを業平ちぎりも

ちるはあるハなりけり

ちるはあるハなりけり